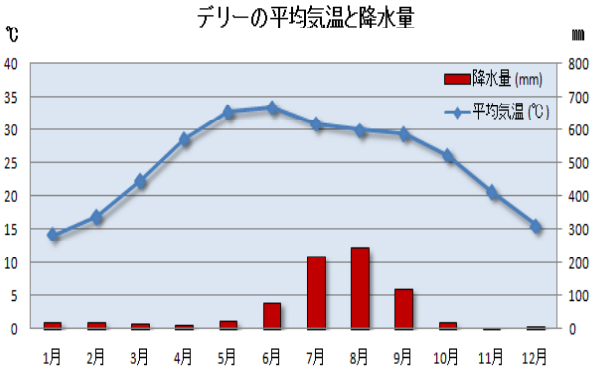
ナマステ　インディア

前ニューデリー日本人学校教諭
浦河町立浦河第二中学校教諭　　榊　　浩　　明

１．はじめに



【気象統計情報（気象庁）】

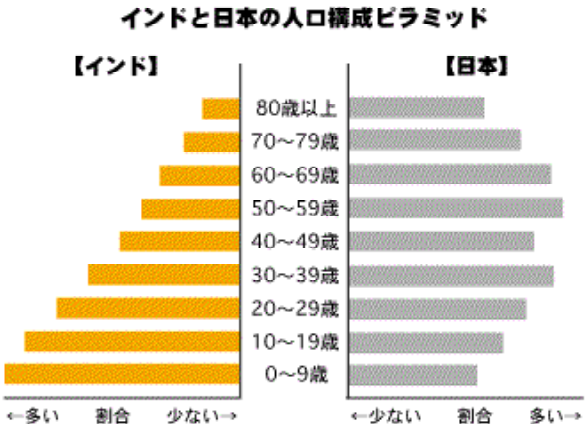
インドの国旗について

インドの国旗は、１９４７年、インド独立の時に制定されました。上段のオレンジ色は勇気と犠牲、中段の白色は平和と真理、下段の緑色は公正さと騎士道をあらわしています。

中央には「法の輪（チャクラ）」が描かれています。この「法の輪」は、今から１２００年以上も前に、インドの基礎を築いた『アショカ王』がつくった獅子の像に彫刻されています。この像は、インドのすべての紙幣に描かれるなど、インドの国を代表するものとして、国民から慕われています。

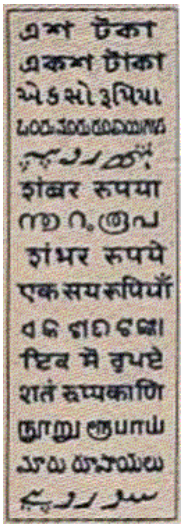
インドの人口は，２００８年現在で約１１億９８００万人といわれています。（国際連合経済社会局人口部『世界の人口推計２００８年版』）これは中国に次ぐ世界第２位で，この人口も年々増加しています。２０２０年には１３億人を超え，２０３０年ごろには中国を抜いて世界一になると推計されています。２０５０年には，インドの人口は１６億人に登るとみられています。

また，インドは単に人口が多いだけではなく，人口構成が理想的であることも特長です。人口の半分が２４歳以下と，平均年齢が非常に若い国家です。右図は人口ピラミッドを描いたものですが，若年層の数が多いインドでは，ピラミッドは底辺が長い理想的な三角形を描きます。



【ＢＲＩＣｓ辞典】

インドの公用語の代表はヒンディー語ですが，国内の全地域で通じるわけではありません。憲法にはヒンディー語の他に１７の言語が公用語の主要なものとしてあげられています。例えばコルカタではベンガル語が，チェンナイではタミル語が主に使われており，これらの都市ではヒンディー語はほとんど通じません。そこで，英語を準公用語としてインド全体で広く使うようにしています。教育機関では一般に英語で授業が行われており，社会的に高い地位にある人々は，きわめて高い英語能力をもっています。



①＋②　アッサミー（アッサム州），マニプリ（マニプリ州）
③　ベンガル（西ベンガル州）
④　グジャラティー（グジャラート州）
⑤　カンナダ（カルナカタ州）
⑥　カシュミーリー（ジャンム・カシミール州）
⑦　コーンクニー（ゴア州）
⑧　マラヤーナム（ケララ州）
⑨　マラーティー（マハラシュトラ州）
⑩　ネバーリー（ヒマラヤ山ろく）
⑪　オリヤー（オリッサ州）
⑫　パンジヤービー（パンジヤプ州）
⑬　サンスクリット
⑭　タミル（タミル・ナドゥ州）
⑮　テルグ（アンドラ・プラデーシュ州）
⑯＋⑰　ウルドゥ・シンディー（北インド）

インド紙幣に印刷されているヒンディー語と英語以外の公用語

以上は、２０１０年３月　ニューデリー日本人学校が発行した『改訂第３版「わたしたちのデリー」』から抜粋しました。

２　お世話になったことを次へ伝える

２００７年４月より３年間、インドの首都デリーにあるニューデリー日本人学校で勤務させていただきました。赴任する前もそうですし、インドに着任してからもそうですが、たくさんの方の支えがあり、２０１０年３月２２日に無事帰国することができました。

唐突ですが、２０１０年度に赴任する先生方のためにつくった『赴任の手引き』に書いた「体験談及びメッセージ」を紹介させていただきます。

４月６日、インディラガンジー国際空港へ到着した私たちをニューデリー日本人学校の先生方およびご家族のみなさんは温かく迎えてくださいました。しかも、自宅でゆっくり休めるようにと準備をしてくださり、本当にありがたい限りでした。改めて感謝申し上げます。２０１０年度赴任されるみなさんとご家族のみなさんを自分が赴任した時以上の準備でお迎えしたいと思っております。

空港から自宅へ向かう交通状況を見て、「ここで運転することはできない！」と悟ってしまいました。海外旅行の経験がほとんどない我が家にとって、「インド」という国はどんなところか想像できない国でした。インドへの赴任が決まり、地図帳や「Ｇｏｏｇｌｅ　Ｅａｒｔｈ」で「ニューデリー」や「自分が住む自宅」の位置を確認したり、北海道からの距離を測ったりしました。我が家が北海道を出発した４月４日の気温は氷点下５度、赴任した時のインドの気温は３５度に近かったのです。寒暖の差に慣れるまでに他の先生方よりも時間がかかりました。また、出発までの土曜・日曜には買い物に出かけ、教員住宅に住んでいた我が家の一部屋は段ボールでいっぱいになってしまいました。何よりも大変心強かったのが、この『赴任の手引き』・『赴任の準備』と、先生方とのメールのやり取りでした。

ニューデリーで今まで過ごしてみて、「からだひとつでやってきても大丈夫ですよ。ただし、日本にいる時と同じようにはいきません。」と言ったところでしょうか。赴任した当時と比べてもデリーの街並みは大きく変わりましたし、おいしいラーメンも食べられるようになりました。２年間又は３年間さらにもう１年とそれぞれの任期を乗り切ることができるよう気力・体力などを整えるために生卵や生野菜、魚介類・肉類をしっかりと日本で食べてくること。車は運転できないので、たくさん運転してくること。

では、みなさんのインドでのご活躍を心よりお祈りいたします。

以上書いた内容については、今も変わりない私の想いです。しかし、大幅に職員が入れ替わったりして、なかなかその想いが伝わっていかないというのも事実です。

インドは不健康地ということなので、ほとんどの人は、赴任２年目の夏休みの「国費一時帰国」をとても楽しみに、インドでの過酷な日々を過ごしています。私が過ごした貴重な３年間のインド生活の中で、生徒や先生方とともにたくさんのことを経験させていただきましたが、その中のいくつかを紹介させていただきたいと思います。

３．修学旅行について

修学旅行の目的

・日常の学校生活と異なった体験を通し，学校生活に変化と潤いを与える。
・普段住み慣れたデリー以外の地域の文化に親しみ，より一層のインド理解を深める。
・集団での活動を通して，教師と児童生徒，児童生徒同士の人間的触れ合いを深める。
・親元を離れ，仲間と集団生活を送ることにより，自立的態度を身につける。
・健康・安全・公衆道徳に気をつけ，集団での生活のあり方について考え，実践する。
・総合的な学習の時間の一部と位置づけ、事前学習、当日の課題解決、事後のまとめを通して、情報の取捨選択力や自己決定力など、２１世紀を生きていくうえで必要な力を付ける。

毎年１０月中に実施している修学学旅行は、小学５年生から中学２年生が楽しみにしている行事です。４学年合わせても、４０人足らずの状態だったのが、私が赴任した年に児童・生徒数が急激に増える状態となり、いろいろなことを見直す必要に迫られました。

移動手段としてバス・列車・航空機などが考えられたが、数年前にインド国内で大規模な列車を爆発するテロ事件が発生し、保護者の中には列車利用に対する拒絶意識が強かったため、ＰＴＡ運営委員会などでも列車利用へのＧＯサインが出ませんでした。バスを利用することで、旅行先が「アグラー方面」と「ジャイプール方面」にほぼ限定されてしまっていました。

児童・生徒数の増加でその年利用していた日本の旅行会社から、「来年度は、ホテルの確保が難しい。」という答えが返ってきました。そこで、１１月中に来年度に向けて「修学旅行プロジェクトチーム」を立ち上げました。赴任３年目の国際交流ディレクターの菊池先生とともに私は、ホテルの確保は難しいのかということを調べました。３年目の菊池先生は、インドでの生活も長く、いろいろな方とのつながりがありました。いくつかのホテルとコンタクトを取り、二つのホテルが学校の方へ足を運んでくれました。最終的には、シェラトン系の「ＩＴＣ　ＨＯＴＥＬ　ＴＨＥ　ＭＵＧＨＡＬ」（アグラー）に決定しました。ホテル側で交渉にあたったのは、サンドゥさんという方で、現在はこのグループのセールスマネージャーをされている方でした。このホテルに決めた理由はいくつかあるのですが、「ジャイプールにも大きなホテルがある。」「ボルボ社製のバスの確保ができる。」「シェラトン系だと保護者の方も安心である。」という点だったと記憶しています。実際にどういうホテルなのかを確かめるため、菊池先生のご家族と私の家族とで冬休みを利用してタージ・マハルのあるアグラーの「ＩＴＣ　ＨＯＴＥＬ　ＴＨＥ　ＭＵＧＨＡＬ」に下見がてら泊まることにしました。また、サンドゥさんにも何度か学校の方に来ていただきました。３月に菊池先生が帰国され、修学旅行の担当が私となりましたが、帰国されてからも菊池先生にはいろいろなかたちで修学旅行が終わるまで大変お世話になったことに改めて感謝申し上げます。

６月下旬に夏休みを利用して小５～中２までの担任、校長、通訳、インド人の日本語ガイドさんなどとともに「修学旅行の下見」を行いました。アグラーは、体験活動をする場所が少なかったので、悩んでいました。日本語のガイドブックなどにも載っている「ムーンガーデン」でタージ・マハルを

スケッチ（それを額に入れて、エントランスホールに展示）やヨガをしてはどうかという案が浮上してきました。しかし、「トイレの確保」が最大の問題だったため、「トイレ付きのバス」をチャーターすることが重要でした。あとは防蚊対策をしっかりすることでした。修学旅行当日は、日の出前に２名の教員とセキュリティーガードが出発し、いろいろな準備を行いました。修学旅行から戻ってきて約１ヶ月後の１１月２６日にはムンバイでたくさんの方が亡くなる同時テロがあり、セキュリティー対策にさらなる注意が必要となりました。

日本の旅行会社が入ることなく、２００８年から修学旅行が２年間行われてきました。今年度、私が帰国する３月下旬の段階でも、担当者が発表されておらず、いろいろな心配事が山積している状態です。

４.「プロジェクト　D」（作文発表会）について

２００７年7月２２日（日）日曜参観日に行われた「プロジェクト　D」。それまでは、「夢を語る会」ということで、中３生のみの発表でした。それを、中１・２年生が聞いて感想を述べるというスタイルでしたが、中学部の担任の２名が新しくなり、「中学部全員が発表してはどうか。」ということになりました。しかし、中学部の人数も２００７年は２１名。２００８年は２９名。２００９年は３８名（プロジェクトD実施時点、体験入学者も含む）と増加してきており、最初２校時で終わっていたのですが、２００９年には３校時でもやっと終わるような状態となりました。

中学部の所属の教師が４名ということもあり２００９年には、中学部の生徒を学年毎ではなく、４つのグループにわけて、それぞれのテーマにそって、例年よりちょっとだけ作文のボリュームを少なくし「～今の想いを言葉に～」にして発表しました。夏休み中にそれぞれのグループの先生に完成原稿をメールで送るということにして、夏休み明けに、清書及び練習ということで進めていきました。

テーマ	主な題名
ＤＲＥＡＭ～夢を追い求める～	「信頼」「僕の夢」「今の自分の夢」など
ＤＥＬＨＩ～この地に生きる～	「国際人へ」「考え方次第で変わる価値観」 「インドに来てからの挑戦」　など
ＤＥＰＡＲＴＵＲＥ～一歩を踏みだす～	「思い出からの一歩」「分かれ道」 「滑走路」　など
ＤＩＦＦＥＲＥＮＣＥ～違いを分かり合う	「アメリカとインドの本当の違い」 「十人十色」「平和への歩み」 「力をつくす」など

テーマと主な題名

日曜参観日ということもあり、保護者は１００％参観するわけです。保護者もとても楽しみにしていらっしゃいます。そして、今どきの中学生はこんなことを思ったり、考えたりしているのか。と感動の声も毎年上がっていました。また、何人かの生徒が５・６年生の前でも当日と同じように発表する機会を設定してもらい、感想も書いてもらい文集にも収めました。

しかし、今年度は、学校のホームページや生徒からのメールによると作文発表会は、実施されなかったようです。生徒数の増加によるものも１つの要因だと思われますが、何ともさびしい限りです。

４．ＢＩＡプロジェクトについて

インドでずっと過ごす日本人の方は、それほど多くはありません。私は、赴任していた３年間という限られた期間でした。生徒にしても、保護者が赴任している期間か、もしくは進路の関係で若干早くインドを離れるかもしれません。「ＢＩＡプロジェクト」は、学習発表会に向けてのとりくみではありますが、一人ひとりやがては発せられる問い、「インドってどんなところ」に対する答えを導き出せるような、そんなとりくみとしてスタートしました。

「プロジェクト　Ｄ」同様に、中学部を４つのグループにわけて、それぞれのグループのテーマにそって一人ひとりが調べ、ネルー大学の日本語科の学生さんとの交流なども含めて毎週１校時程度の時間を使って、発表するための準備を進めました。

Ａグループ「日本人から見たインド人の不思議」 ・おおざっぱなのか？ ・みんな協力的なのか？ ・英語を話すとき舌を巻くのか？ ・平気で割り込んでくるのか？ ・横にうなずくのか？ ・平気でゴミを捨てるのか？	Ｃグループ「インド人の顔」 ・インド人の顔 ・地方による顔立ちの違い ・地方による衣服の違い ・地方による言語の違い ・地方による食生活の違い ・歴史的な人の移動 ・歴史と神話 ・無数の違いの中で
Ｂグループ「インド人から見た日本人の不思議」 ・食事の時間帯 ・何故家族を大切にしていないと思われるか？ ・日本人の大切なもの ・日本人の習慣 ・どうして謙虚なのか？ ・日本人のマナー ・日本人の食事の違い ・日本とインドの食事	Ｄグループ「華麗なる一族」 ・カレーの歴史について ・スパイスの効能 ・スパイスの種類 ・カレーと一緒にたべているもの ・日本のカレーとの違い ・具及び食材について ・地方によるカレーの違い

各グループのテーマと個人で調べた内容

ＢＩＡプロジェクト「不思議の国　インド」のシナリオ

【ガンジス川の日の出】

(　　)「『インドってどんな国？』そんな質問をあなたは日本でされたことはありませんか。そして、その質問にあなたは何と答えましたか。そして何と答えますか。この疑問に答えるべく、私たち中学部は、インドのことを語れる国際人になるための総合学習、名付けてB・I・AことBe Internationalists and Ambassadorsプロジェクトに取り組んできました。さあみなさんもインドについて中学部の私たちと一緒に考えてみてください。」

(　　)「インドといえば？」

●手を耳に当ててたずねる。　　(会場から)「カレー！」

(　　)「そうですね～。そんなわけで、まずはこちら！【華麗なる歴史】インドカレーの華麗なる歴史についてお話したいと思います。カレーはインドで生まれた、伝統的な料理です。しかし、もともとインドには、【curry?!】「curry」という名前の料理はありませんでした。ではなぜ「curry」という言葉が生まれたのでしょうか。それにはいくつかの説があります。その中で特に有名な説が二つあります。【説１①】一つ目はタミール語で【説１②】「ご飯にかけるタレ状のもの」という意味の「カリ」という言葉を西洋人が勘違いしたという説。【説２①】２つ目は西洋人がヒンディー語で【説２②】「香りのよいもの」「美味しいもの」という意味の「ターカリー」という言葉を勘違いしたという説。どちらの説も勘違いという簡単なミスだったのです。【カレー粉発明】その当時インドにはカレー粉というものはなかったのですが、だれにでも簡単にカレーが作れるように、イギリスで発明されました。日本には明治時代にイギリスからカレーが伝わってきました。日本では、歴史の浅い食べ物であるにもかかわらず日本人の食生活にはなくてはならないものとして定着しました。」

(　　)「【タイトル画像】インドのカレーは日本のカレーと違い、何種類もの味、色などがあります。インドのカレーで大切なのは、【スパイス①】スパイスです。まず、そのスパイスは世界に１０００種類以上もあります。その中からインド人は選び抜いて使っているのです。」

(　　)「そのスパイスですが、形状によっていくつかの種類にわけることができます。【スパイス②】色づけに使うサフランは『原型』。【スパイス③】酸味づけに使うアムチュールは『粉状』。【スパイス④】辛味づけに使うマスタードは『種状』。【スパイス⑤】香りづけに使うジンジャーは『根』に分類されます。」

(　　)「【具１①】次に、主なインドカレーの具についてですが、よく使われるのは【具１②】オクラ・【具１③】ほうれん草・【具１④】かぼちゃ・【具１⑤】グリンピース・【具２①】トマト・【具２②】豆・【具２③】羊肉・【具３①】バター・【具３②】ヨーグルトなどです。スパイスや具材を駆使して作られるインドのカレーは、いうならば、一つ一つが芸術品のようなものなのです。」

(　　)「【効能①】スパイスは食品の味に変化を与え、味覚、嗅覚、視覚などの感覚神経を刺激して食欲を向上させるなど、料理には欠かせないものとなっています。【効能②】またスパイスには抗酸化作用という体の酸化を防ぐ作用があり、ガンや動脈硬化、糖尿病などに対する予防効果としても焦点が当てられています。【効能③】それぞれのスパイスには独自の効能があり、人々の健康を維持するためにも使われています。」

(　　)「【レッドチリ】例えば、レッドチリは血の流れを良くしたり、発作を起こしにくくしたりするはたらきがあります。【コリアンダー】マイルドな香りが特徴のコリアンダーは薬としてもよく使われ、胃を丈夫にするはたらきがあるそうです。

【ジンジャー】ジンジャーは香りの成分に発熱や保温などの効果があります。

（　　）「それでは東西南北カレーガールズのみなさんに、各地のカレーを紹介してもらいましょう。まず、北インドのカレーにはどんな特徴があるのでしょうか？」

（　　）「はい。【北】北インドのカレーは水分が少なく、油を多めに使用し、比較的こってり目のカレーです。また、主食にはナンやチャパティーが食されます。」

北インド

●ナレーター、移動しながらインタビュー。

（　　）「なるほど。それでは南インドではどうなのでしょう？」

（　　）「はい。【南】南インドのカレーは北インドのカレーよりも辛く、水分の多いサラっとしたカレーです。また、主食にはお米が食されます。」

南インド

（　　）「南北ではだいぶ違いがあるんですね。それでは東インドのカレーについて教えてください。（　　）「【東】東インドのカレーは辛いだけでなく、苦味もあるカレーです。主食にはお米や小麦が食されます。」

（　　）「なるほど。それでは西インドではどんなカレーが食べられているのでしょうか？」

東インド

（　　）「【西】西インドのカレーは油もスパイスも控えめです。主食にはお米が食されます。」

（　　）「地域によって、それぞれの気候風土に合ったいろいろなカレーがあるんですね。そういえばもうすぐお昼です。お腹がすいてきてしまいました。」

（　　）「インドでは、食事の時間が日本より 2 時間ほど遅いので、もうちょっとがまんしてくださいね。」

（　　）「は～い。では、カレーガールズのみなさん、ありがとうございました。」

西インド

●舞台裏から盛大な拍手を送る。カレーガールズ拍手にのって手を振りながら舞台右手へ退場

（　　）「【地図１】こうした地方による文化の違いは、インドにおける歴史的な人の移動が関係しています。【地図２】紀元前３５００年ごろ、ドラヴィダ人と呼ばれる人々が西アジアから入ってきました。北には資源が多いので、人々はインド北部に多く住んでいましたが、【地図３】紀元前１５００年ごろ、パミール高原からカイバル峠を越えて、西欧人に近い人種のアーリア人が資源を求めて移住してきました。戦力に長けたアーリア人は次第に勢力を広げ、【地図４】先住民族のドラヴィダ人を南に追いやりました。しかし、南には肥沃な平地と海があり、稲作や漁業に適していたので、ドラヴィダ人は南に定住しました。」

（　　）「【ラーマとラーヴァナの闘い】インドの神話「ラーマヤナ」には、この２つの人種の攻防が描かれていると言われています。世界の多くの神話や伝説は、古代に起きた戦争などの事実をもとに書かれています。その中では、勝った側が「神」として、負けた側が「鬼」や「悪魔」として、支配者の都合の良いように書かれます。「ラーマヤナ」は、ラーマ王子が魔王ラーヴァナを倒し、さらわれたシータ姫を取り返すという冒険物語です。【ラーマ】ラーマはアーリア人の勢力、【ラーヴァナ】ラーヴァナはドラヴィダ人の勢力であると考えられます。」

（　　）「【言語地図】そして、もともとアーリア人の言語であったヒンディ語は、北インドを中心に多くの人によって話されるようになりました。【円グラフ１】公用語であるヒンディ語を母語とする人々はインド人の約１８％です。【円グラフ２】またヒンディ語を話せる人は約３０％、【円グラフ点滅】さらにヒンディ語を理解している人はそれ以上だそうです。【言語地図】広大な国土と膨大な人口を抱えるインドにおいて、使われている言語の数は３千から１万６千とも言われていますが、その中でヒンディ語を話す人の割合はかなり高いと言え

ます。」

（　　）「【移動地図】時代は下り、東北からはネパール人が、イギリスの植民地時代には、ヨーロッパ人が多く移住してきました。」

●【顔いろいろ】質問者、舞台右袖から登場

（　　）「こうした歴史的背景もあり、「多民族国家」と呼ばれるインドでは、いろいろな顔立ちの人が見られるのです。」

（　　）「ねえねえ○○君。そういえば、学校のスタッフさんの中にも、いろいろな地方出身の人がいるよね。」

（　　）「うん。【ジャスリーンさん】たとえばジャスリーンさんは北部の出身だよ。北部ではアーリア人の血をひいていて、背が高く、目と鼻が大きくて、肌の色は白い人が多いんだ。」

（　　）「ということは、南の方にはドラヴィダ人の血を引く人たちが多く住んでいるのかな？」

（　　）「そうだね。【ヨギさん】南部の人は一般的に肌の色が黒く、髪がきれいなんだって。事務室のヨギさんは、南のケーララ州の出身だよ。」

（　　）　「日本人に近い顔立ちの人もときどき見かけるよ。」

（　　）「【タマングさん】それはネパールの方から来た人じゃないかな。タマングさんのように、目が小さく、背は低く、体つきはがっちりしていて、額が広いのが特徴だよ。」

（　　）「【まとめて３人】へえ。地方によって顔立ちがぜんぜん違うんだね。」

（　　）「でも、今では地域間の交流がさかんだし、大都市に人が集まる傾向があるから、地方ではっきり特徴を分けるのはむずかしいんだ。」

（　　）　じゃあ、【インド2】どうしてインド人はYesの時に首を横に振るの。

（　　）　それは歴史があってね、【ブルガリア王】大昔、ブルガリアの王様が敵に剣をのど元に突きつけられて返事を迫られたんだって。その時に「ダ！」と言いながら首を横に振ったことに始まったと言われているんだよ。

（　　）　　そして昔インドがイギリスに占領されていた時に、ヨーロッパから伝わってきたんだよ。ちなみに横にうなずく国民は他にもいて、ギリシャ、トルコ、イラン、パキスタン、ネパール、バングラディッシュ、スリランカもだよ。おもしろいだろ？

（　　）　なるほど、そうなんだ。

（　　）　そしたら逆に、【インド3①】どうしてインド人はゴミをそこらへんに平気で捨てちゃうんですか。

（　　）　それはね、【インド3②】拾ってくれる人がいるからだよ。でもやっぱり僕たちも世界的にはよくないことだと思っているんだけど、捨てている人に注意すると、「あなたには関係ないでしょ。」って言われちゃうから注意できないんだよ。

（　　）　実はね、ゴミを拾っている人は国から給料をもらっている公務員と【カースト】カースト制度の影響で低位だと考えられている人たちとに分けられるんだよ。でも低位カーストの人たちは、自分から望んでそうなったわけでなく、ゴミを拾うのも生活のためなんだ。だから低位カーストの人たちのためになると思って、ゴミをあえて捨てる人もいるんだよ。

（　　）　なるほど、そんな歴史的背景があったんですね。

（　　）「【相互理解】お互いの違いを理解し合い、認め合うことって大切だね。」

（　　）「日本人である僕たちがインドでこうして暮らしていられるのは、インド人が「違い」を受け入れてくれているからなんだ。」

●合唱の隊形に整列開始

（　　）【セリフ英訳】「インドにはたくさんの人びと、多様な暮らし方、多くの言語、無数の神々が存在します。それらすべてを受容し、インドというひとつの国を形作っているのは不思議なことです。」

（　　）【セリフ英訳】「そして、さまざまな「違い」を認め合いながら生きる、インドの人びとのたくましさ、懐の深さは尊敬に値します。こうした国民性を育んだ、インドの母なる大地にこの歌を捧げます。」

「大地讃頌」を合唱する。

２月上旬に行われる「学習発表会」に向けての発表は、過去２回とはまた違ったものが発表できた。念願だった？中学部で合唱を行うことが実現できた。しかし、中学部としての発表ではなく、各学級の発表にするべきだという声が毎年上がっており、今年度は各学級の発表となるのでしょう。

５．おわりに

私がニューデリー日本人学校の中で一番気に入っている場所は、「中庭」でした。新しくやってきた仲間を迎入れるのも（「ナマステの会」）、そして、仲間とのお別れをするのも（「フィルミレンゲの会」）この場所でした。

私もこの中庭で最後にあいさつを
させてもらいました。１１名の先生方が帰国することもあり、時間も限られていました。

みなさん　　こんちくわ！　榊　浩明です。

私は、2007年4月6日にニューデリーにやってきました。帰国して日本で活躍されている先生方、転出された児童生徒、保護者のみなさん、そして、いまいらっしゃる児童生徒、保護者のみなさん、先生方に支えられて、大きな病気もすることなく過ごすことができて、とてもしあわせでした。私からみなさんへ、お願いが一つだけあります。人数が増えつづけても、いつでも「あいさつ」のできるみなさんでいて下さい。そんなニューデリー日本人学校でありつづけてください。

児童･生徒のみなさん、そして、保護者のみなさん、私以上にいろいろなことを受け止めて下さる先生方が4月6日にやってまいります。ニューデリー日本人学校のいいところをたくさん話していただきたいと思います。お世話になりました。ありがとうございました。

ダンニャワード！！　　How do you like Hokkaido ！

自分一人の力ではとても３年間なんて続きませんでした。家族の理解と協力はもちろんとても大きなものでした。日本に残してきた両親や親戚などの協力がありがたかったです。また、同期派遣の杉原大樹先生（石狩）にも多大なパワーをいただきました。いろいろな人に支えられインドで３年間を過ごすことができました。日本から出発する前に激励会を開いてくださった先生方、そして、手紙やメールなどもたくさんいただき、とても励みになりました。また、日本へ戻ってきて間もなく、報告会なども計画していただき、なつかしい顔があたたかく迎えてくださり、とても感謝している次第です。